

資料

平成24年度校務改善表彰受賞校の中から、国立市立第五小学校における実践事例のスライドを御紹介いたします。

資料を御提供くださいました国立第五小学校の皆様へ感謝いたします。

東京都教育庁人事部

国立第五小学校における校務改善の推進について

平成25年2月19日(火)



アジェンダ

- ❖ 本校の課題と学校経営の基本方針
- ❖ 業務の効率化をめざすところ
- ❖ 本校の取り組み事例

2



本校における校務改善推進の必要性

①学校経営の基本方針から見た校務改善必要性

学校経営の基本方針 (国立第五小学校教育計画より抜粋)

学校経営は、児童・保護者・地域の信頼の上に成り立つものである。そのためには、学校教育の目標の達成を目指して

**全職員が組織としての協働体制を築き、
教育実践を効果的、能率的に進めること**

が大切である。

また、教職員一人一人が自らの職責を自覚し、それぞれの力を十分に発揮し合い、相互理解と相互信頼の上で協力し、責任をもって実践することが必要である。そのために、人材育成を図りながら、学校教育力を保持し、増強し、教育の実行性が高まるような学校経営を進めていく。

3



学校経営の基本方針からわかること

全職員が組織としての協働体制を築き

⇒情報の共有化

教育実践を効果的、能率的に進めること

⇒業務の効率化



より効率化をめざす＝新たな時間を生み出す

4



本校における校務改善推進の必要性

②本校の教員の現状の問題点から見た校務改善の必要性

若手教員の増加	→ 教育の質の低下への懸念 ノウハウの継承の必要性
業務ノウハウの蓄積がない	→ その場しのぎの仕事 情報の共有が少ない
放課後の時間がない → 教材研究する時間が少ない	→ 教育の質の低下への懸念
二重業務が顕著であった	→ 無駄な時間の増加
手作業が多い	→ 無駄な時間の増加

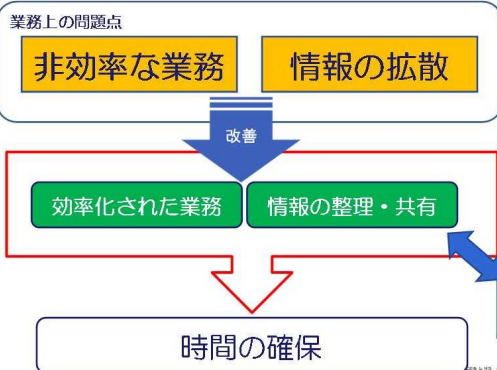


【課題】
情報の共有がされていない 非効率な業務が多い

5



本校の課題の整理



6

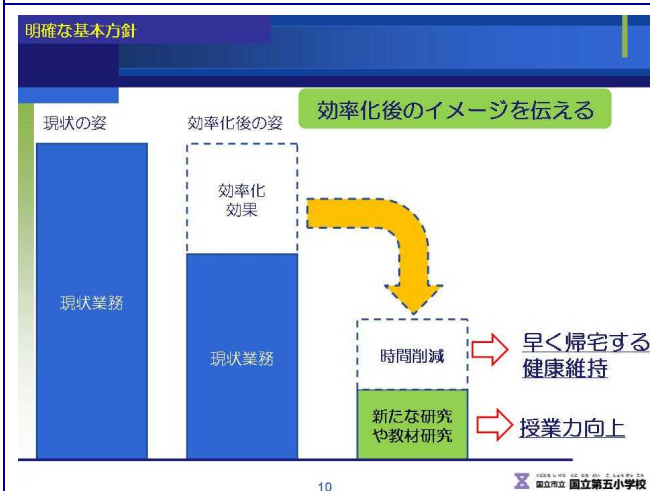
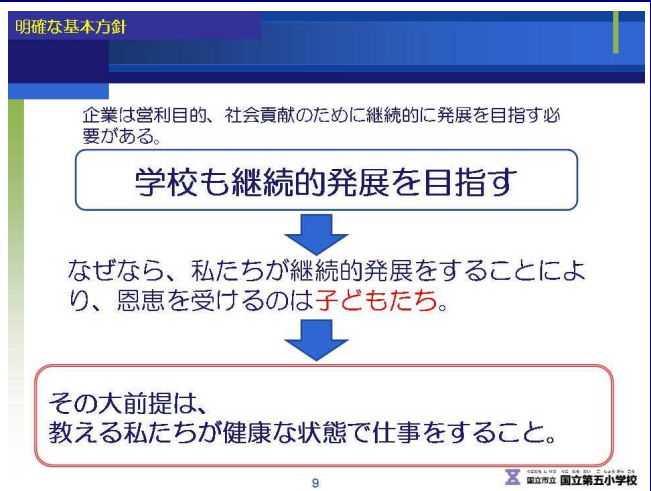
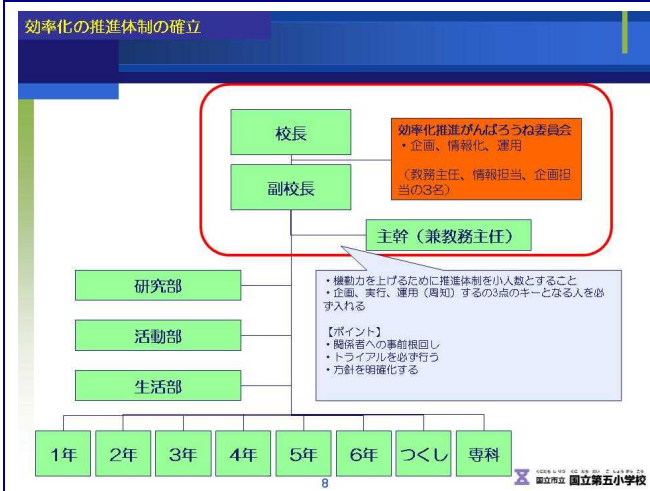


どのように推進したか

- 効率化の推進体制の確立**
→ トップダウン型とボトムアップ型の有志の組織形態
ユーザー本位ではしていることを意識付け
- 明確な基本方針**
→ 何のためにするのか、効果は何か、いやらしいところもすべて話す
- 実感できるものから取り組む**
→ 使う人が、「仕事が楽になった!」と実感が強くもてるものから始める
- スモールステップを踏む**
→ 大旗を振るのではなく、できるところからやってみる
合言葉は「できるところからはじめよう!」
- トライアルから本番へ**
→ いきなりはしめるのではなく、トライアル⇒評価⇒本番を徹底する
(ユーザーの意見を吸収する場を設ける)

7



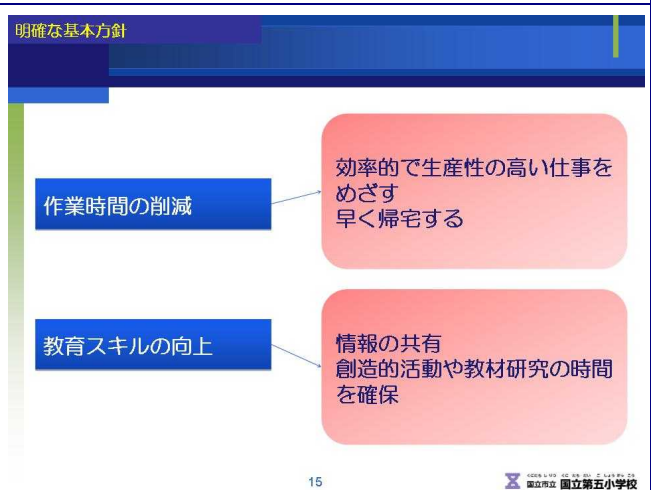
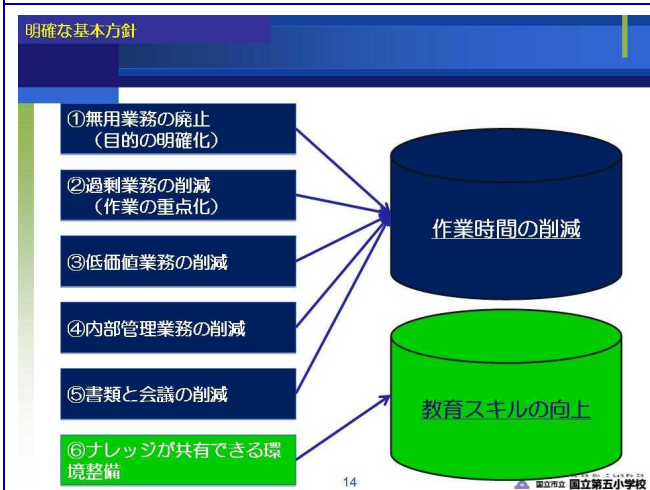
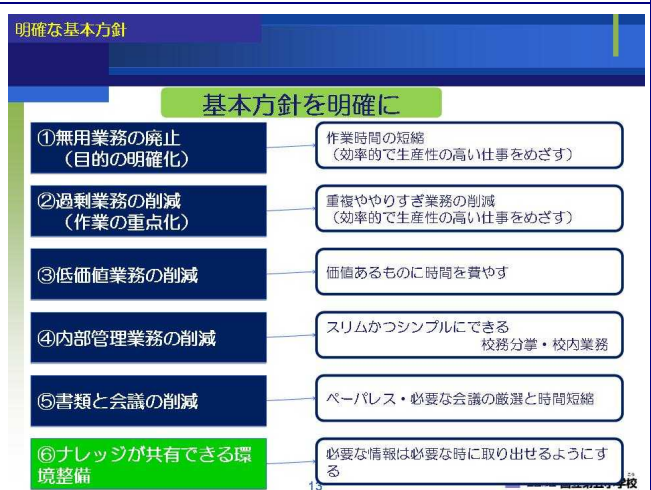
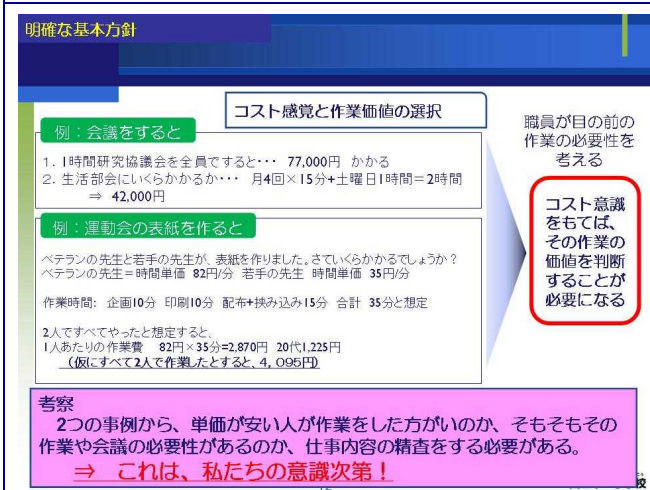


明確な基本方針

あなたの時給はいくら? 効率化のめざすところ (作業価値の選択)

東京都教育庁人事部からの冊子より、想定年収をもとに時給を出してみました。あくまで想定です。主任・主幹・副校長・校長などの役職の間をとって計算しています。(年間労働240日と想定して)

	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳
年収	4,000,000	5,000,000	6,000,000	6,500,000	7,500,000	8,500,000	9,500,000	10,000,000
税引後支給額	2,816,901	3,500,000	4,225,352	4,577,465	5,281,690	5,985,915	6,690,141	7,042,254
年収で考える日給	16,667	20,833	25,000	27,083	31,250	35,417	39,583	41,667
1時間あたり(8時間労働)	2,083	2,604	3,125	3,385	3,906	4,427	4,948	5,208
1分あたり	35	43	52	56	65	74	82	87



本校の取り組み事例

作業時間の削減

教育スキルの向上

1. 生活時程の見直し
2. 校務分掌の再構成
3. 資料のデータ化
4. 集金システムの改善
5. ナレッジの共有化
6. 授業改善プロジェクト

16 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む 何から始めるか？

1. 生活時程の見直し
2. 校務分掌の再構成
3. 資料のデータ化
4. 集金システムの改善
5. ナレッジの共有化
6. 授業改善PJT

17 国立市立 国立第五小学校

具体的事例

実感できるものから取り組む 本校の取り組み事例（作業時間の短縮）

1. 生活時程の見直し
 - 職員朝会を挨拶だけとし、朝清掃（10分間清掃）を行う。
 - 朝会での連絡事項は、背面黒板を利用。それ以外は、夕会時の連絡とする。
 - 平日の会議を行わない
 - 月1回の土曜授業日の午後会議を集中する。
 - 月1回「ノー残業デー」を行事計画に設定する。

教員の健康維持（早く帰宅する） 省エネルギー対策

18 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む 本校の取り組み事例（作業時間の短縮）

1. 生活時程の見直し

変更前	変更後
8:15 登校	8:15 登校
8:25 朝会・集会	8:20 清掃
8:40 学級指導	8:35 学級指導
8:45 1校時	8:40 1校時
9:30 2校時	9:25 2校時
9:35 中休み	9:30 中休み
10:20 3校時	10:15 3校時
10:40 4校時	10:35 4校時
11:25 給食	11:20 給食
12:15 清掃	12:10 給食
13:05 昼休み	12:55 昼休み
13:20 5校時	13:15 5校時
13:40 6校時	14:00 6校時
14:25 6校時	14:05 6校時
14:30 6校時	14:50 6校時
15:15	

6校時終了時刻を15:15から14:50へ25分間の短縮

19 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む 本校の取り組み事例（負荷の分散）

2. 校務分掌の再構成
 - 教務部を廃止する
 - 教務事務を全員に割り振り、教務部としての機能を分散する。進行管理は・調整は教務主任が行う。
 - 校務分掌の精選を行う

不必要な分掌、仕事が重複している分掌を廃止する。
仕事内容を伝達できるシステム 1人1役→2人体制。

20 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む 本校の取り組み事例（データ化の推進）

3. 資料のデータ化

- 職員会議資料をデータで提示する（ペーパーレス）
 - 校内LANの活用により、ドキュメントの共有化
⇒ 職員会議資料の紙文章を減らし、印刷・配布の手間を簡略化
- 児童名簿の一括管理をする
 - ファイルをリンクすることによって、児童名簿から各種名簿を一度に作成できるようにした。一度児童名を入力すれば、転出入時の修正だけで6年間使用することができる。⇒ 管理工数の削減、データの利便性の向上
- 転出入書類の一括管理をする
 - ファイルをリンクすることによって、転出入児童の各種名簿を一度に作成できるようにした。⇒ 連絡先等の漏れの減少

21 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む 本校の取り組み事例（データ化の推進）

3. 資料のデータ化

- あゆみ（通知表）のデータ化をする
 - あゆみ（通知表）を改編して、データ入力のみで作成できるようにした。
⇒ 入力、読み合わせなどの作業時間の短縮
- 指導要録抄本をデータ化する
 - あゆみ（通知表）とリンクさせ、指導要録抄本をデータ入力できるようにした。⇒ 2重業務の削減、作業時間の短縮

22 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む
本校の取り組み事例（集金業務の改善）

4. 集金システムの改善

集金の銀行一括納入をする

集金を年間予算立てをし、保護者に指定銀行に一括納入してもらい、学期ごとに会計報告を出す。⇒ 会計の手間と会計事故のリスクの減少

写真屋の集金を簡素化する

写真屋の集金をインターネット販売及び学校での掲示、業者による集金にした。⇒ 業務が軽減し、会計事故のリスクの減少

23 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む
本校の取り組み事例（知識共有）

5. ナレッジの共有化

データを集中し、共有できるようにする

ファイルフォルダーを再編し、各人が持っているデータを集中できるようにした。少しずつ今までのデータが共有できるようになってきている。⇒ 資料を探したり作る時間の短縮、ノウハウの共有

24 国立市立 国立第五小学校

実感できるものから取り組む
本校の取り組み事例（効果的なOJT）

6. 授業改善プロジェクト

ゼミ形式によるOJTを行う

主任教諭クラスをリーダーとした、少人数でのゼミ形式で、校内研究とは別に年間を通して授業研究を行っている。⇒ 学習指導力以外のOJTも日常的に行われるようになった（知識の伝承）

25 国立市立 国立第五小学校

トライアルから本番へ
推進までの承認経路

実施までは、以下の通りの審査を経て、実施します。

26 国立市立 国立第五小学校

本校における校務改善の効果

- 子供に向き合う時間が確保
- 職員の帰宅時間が早くなった
- 情報の共有により資料のありがたが明確になった
- 職員の効率化への意識の高まり

27 国立市立 国立第五小学校

【考察】なぜ推進できたのか？

- 現場と管理職との危機感の共有
- 「くにごメソッド」による一貫した指導法の定着が、組織としての一貫した指導・思考につながった ⇒ 学校としてのまとまり
- 成功体験の積み重ね＝実感の積みかさね
- 「まずはやってみよう！」の職場環境 ⇒ トップダウンとボトムアップのバランス

28 国立市立 国立第五小学校

今後の課題

- 効率化ノウハウの伝承、伝達（市内への広がり）
- 職員意識の持続（効率化は、学校文化とする）
- 課題解決能力から、さらに問題発見能力の育成
- くにごスタンダード（標準化の推進）

29 国立市立 国立第五小学校

本校における校務改善の推進について

ご静聴
ありがとうございました。

国立市立 国立第五小学校

30 国立市立 国立第五小学校